

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成22年10月～12月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成23年1月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 22 年 10 月～12 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

### 2. 調査対象期間

平成 22 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 22 年 11 月 15 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 4
建 設 業	2 5
小 売 業	4 4
サービス業	4 7
合 計	1 5 0

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 22 年 10 月～12 月)の調査において、産業全体の業況D I は、前期より 1.5 ポイント改善し△39.7 (前期△41.2) となったが、産業全体の主要D I は、売上額が△37.7 (前期△35.7)、採算が△50.4 (前期△42.0)、資金繰りは△38.4 (前期△31.7) といずれも下降し、回復傾向にあった景況感は横ばい状況となった。

要因としては、売上額(完成工事額)D I において建設業が住宅エコポイントの影響か今期 38.8 ポイント回復させたが、製造業は円高の影響が浸透してきたのか 20.7 ポイント下降させ、小売業もたばこ増税の買いだめの反動等もあり 4.5 ポイント下降させるなど他産業に相殺されたこと、また、原材料・商品仕入単価D I が高い水準にあり、採算D I がすべての産業において下降していることなどが挙げられる。

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事)D I は、建設業が 38.8 ポイントと大きく改善したが、その他の産業は製造業が 20.7 ポイントと下降幅が大きく、小売業も 4.5 ポイント、サービス業も 7.5 ポイント悪化した。

### ② 採算の状況

採算D I は、製造業が 8.9 ポイント、建設業が 2.2 ポイント、小売業が 18.7 ポイント、サービス業が 2.1 ポイントとすべての産業が悪化した。特に小売業の悪化幅が大きかった。

### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、建設業は前回と比較し 3.7 ポイント上昇したが、その他の産業はいずれも前回よりも実施比率が下がった。(製造業△3.0 ポイント、小売業△6.9 ポイント、サービス業△2.2 ポイント)

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事）D Iは建設業において宮城の建設業が4.0となり38.8ポイントと大きく改善したが、全国、東北においては若干悪化した。その他の産業は全国・東北・宮城ともに悪化しており、特に宮城の製造業において20.7ポイントと悪化幅が大きかった。また、建設業の全国との乖離幅が33.4ポイント、サービス業の乖離幅が△18.8ポイントと拡大したが、その他の産業は乖離幅が縮小した。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 12.8	△ 16.8	△ 12.3	△ 17.5	0.1	△ 20.6
建 設 業	△ 29.0	△ 29.4	△ 25.4	△ 26.2	△ 34.8	4.0
小 売 業	△ 42.2	△ 49.4	△ 47.0	△ 53.1	△ 50.0	△ 54.5
サービス業	△ 35.2	△ 37.7	△ 38.8	△ 42.1	△ 49.0	△ 56.5

### ② 採 算

建設業において全国は採算D Iを3.4ポイント改善したが、東北、宮城は若干悪化させ、その他の産業も全国、東北、宮城ともに採算D Iを悪化させた。全国との乖離幅も製造業が△11.6ポイント、建設業△9.3ポイント、小売業が△17.0ポイント、サービス業△9.4ポイントとなり全ての産業で乖離幅を拡大した。

表二 採算の状況（前年同期比・D I値）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 23.6	△ 26.7	△ 28.6	△ 30.1	△ 29.4	△ 38.3
建 設 業	△ 42.1	△ 38.7	△ 40.3	△ 41.8	△ 45.8	△ 48.0
小 売 業	△ 43.1	△ 45.8	△ 49.7	△ 50.7	△ 44.1	△ 62.8
サービス業	△ 37.6	△ 39.4	△ 43.8	△ 44.3	△ 46.7	△ 48.8

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上（完成工事）D Iの来期見通しは、建設業が20.0ポイント悪化すると予測されたが、その他の産業は製造業が11.5ポイント、小売業が6.7ポイント、サービス業が7.5ポイントといずれも好転すると予測される結果となった。

採算の来期見通しについては製造業9.3ポイント、建設業12.0ポイント、小売業11.5ポイント、サービス業6.6ポイントといずれも好転すると予測される結果となった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上（完成工事）D Iの来期見通しは、宮城の製造業は全国より12.4ポイント、建設業も20.8ポイント、小売業も0.9ポイント上回るが、サービス業は9.9ポイント下回ると予測された。

採算D Iの来期見通しは、宮城の建設業が全国より2.9ポイント上回るが、製造業は2.7ポイント、小売業は5.5ポイント、サービス業も5.0ポイント下回ると予測された。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 16.8	△ 21.5	△ 20.6	△ 9.1
建 設 業	△ 29.4	△ 36.8	4.0	△ 16.0
小 売 業	△ 49.4	△ 48.7	△ 54.5	△ 47.8
サービス業	△ 37.7	△ 39.1	△ 56.5	△ 49.0

表－4 採算来期見通し (D I値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 26.7	△ 26.3	△ 38.3	△ 29.0
建 設 業	△ 38.7	△ 38.9	△ 48.0	△ 36.0
小 売 業	△ 45.8	△ 45.8	△ 62.8	△ 51.3
サービス業	△ 39.4	△ 37.2	△ 48.8	△ 42.2

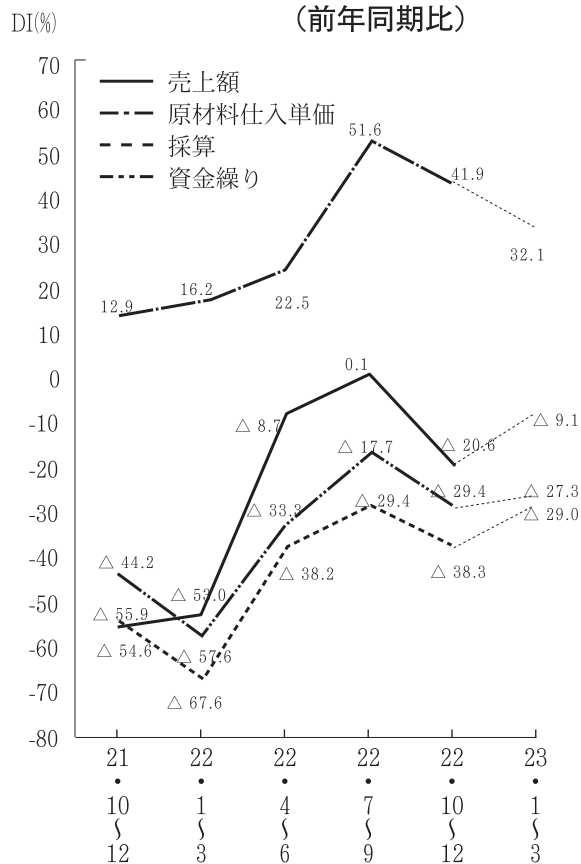
## 2. 県下産業別の景況

### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

平成21年7月～9月期以降改善傾向にあった売上（加工）額D Iが今期は△20.6（前期0.1）となり20.7ポイント悪化した、採算D Iも△38.3（前期△29.4）と8.9ポイント、資金繰りD Iも△29.4（前期△17.7）前期比11.7ポイントと下降したが、原材料仕入単価は41.9（前期51.6）と9.7ポイント改善した。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



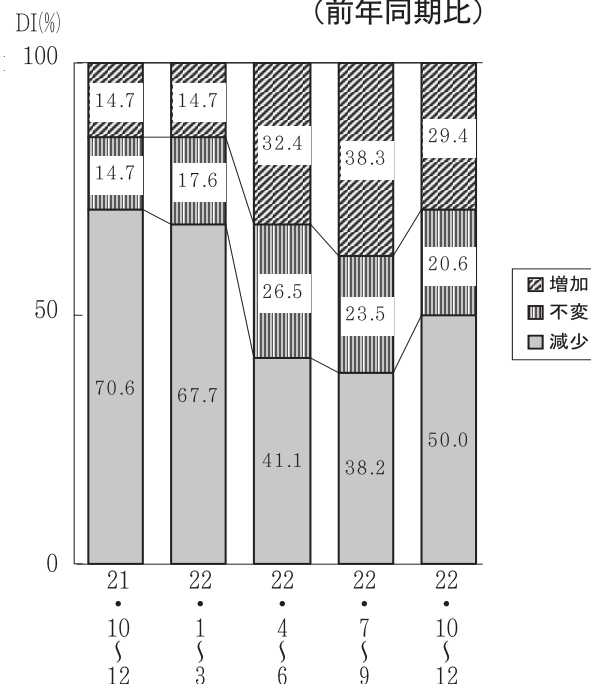
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上（加工）額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の29.4%（前期38.3%）で前期比8.9ポイント下降し、「減少・悪化」と回答した企業は50.0%（前期38.2%）と前期比11.8ポイント上昇した。

結果として売上（加工）額D Iは△20.6（前期0.1）となり前期比20.7ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

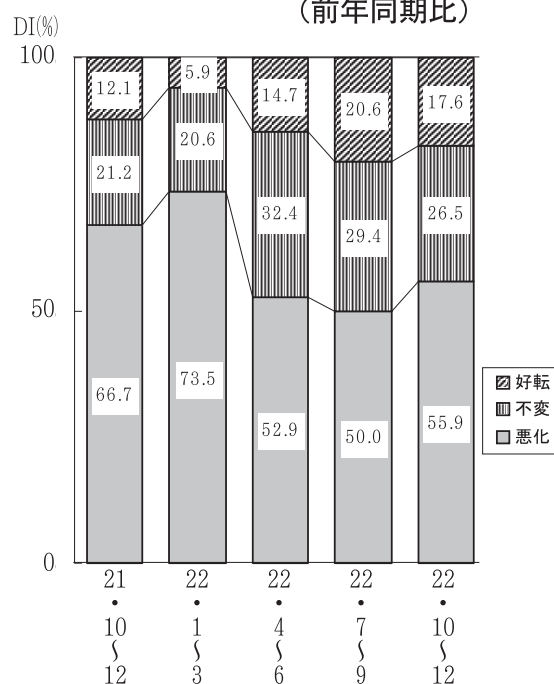


### (b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の17.6%（前回20.6%）で3.0ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は55.9%（前回50.0%）で5.9ポイント増加した。

その結果、採算DIは△38.3（前期△29.4）となり8.9ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



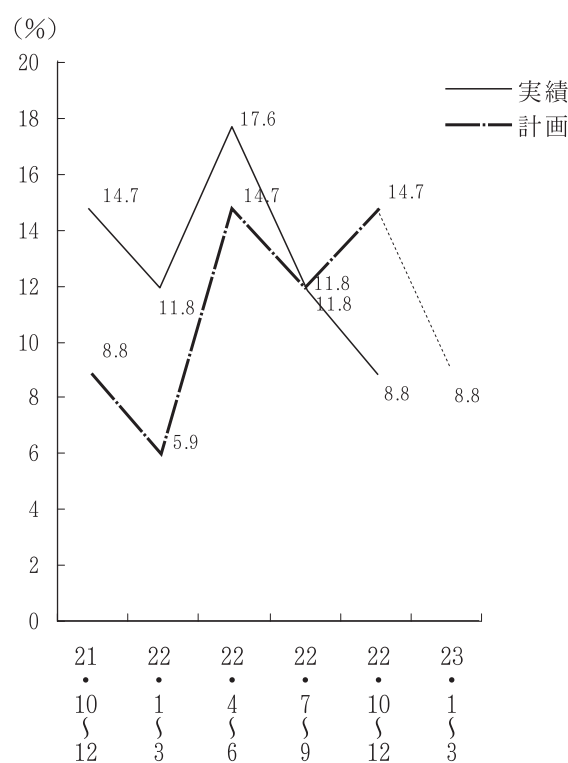
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の8.8%（前期11.8%）で3.0ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、車両運搬具、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の8.8%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

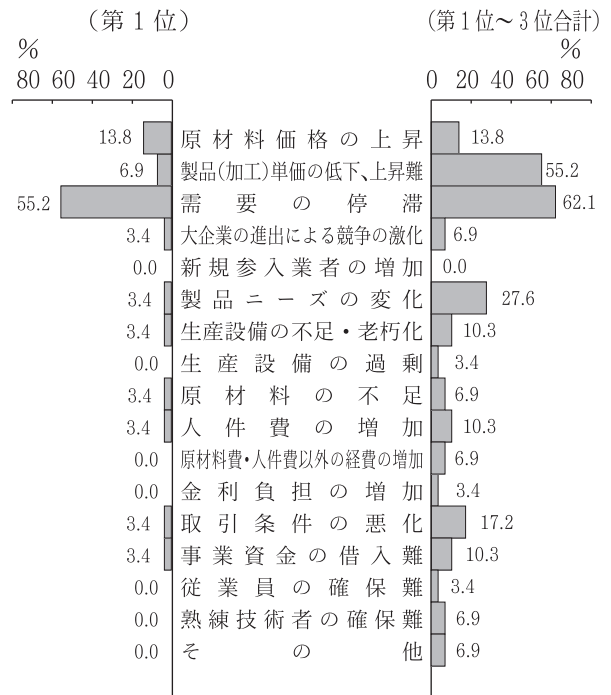


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(55.2%)、次いで「原材料価格の上昇」(13.8%)、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(6.9%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(62.1%(複数回答以下同じ))、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(55.2%)、「製品ニーズの変化」(27.6%)、「取引条件の悪化」(17.2%)、「原材料価格の上昇」(13.8%)と続いている。

図1-5 経営上の問題点



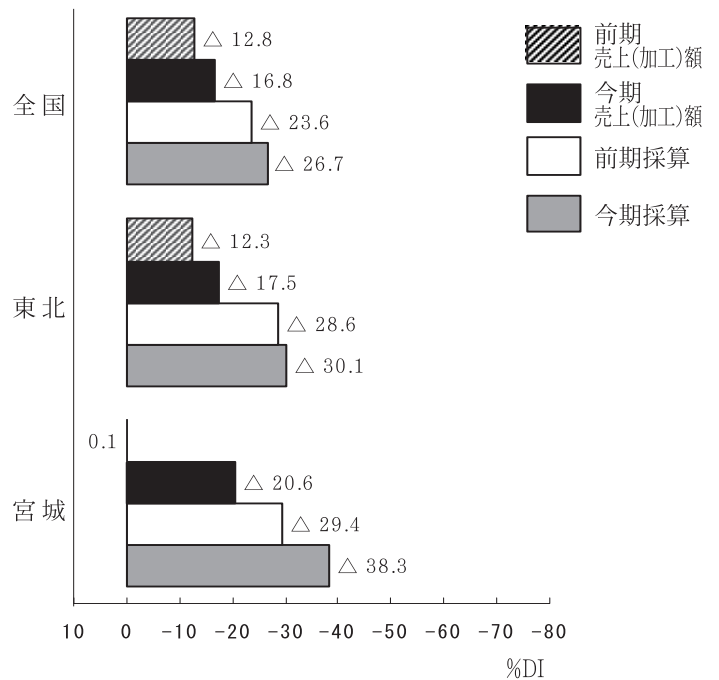
### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期は宮城の売上(加工)額DIがプラス値となり全国・東北を上回ったが、今回は売上、採算、ともに全国・東北を下回った。

売上(加工)額DIは、全国、東北、宮城ともに悪化し、特に宮城の悪化幅が20.7ポイントと大きかった。

また、採算DIにおいても同様の傾向となり、宮城においては8.9ポイント下降し、全国との乖離幅が5.8ポイント拡大し11.6ポイントになった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較





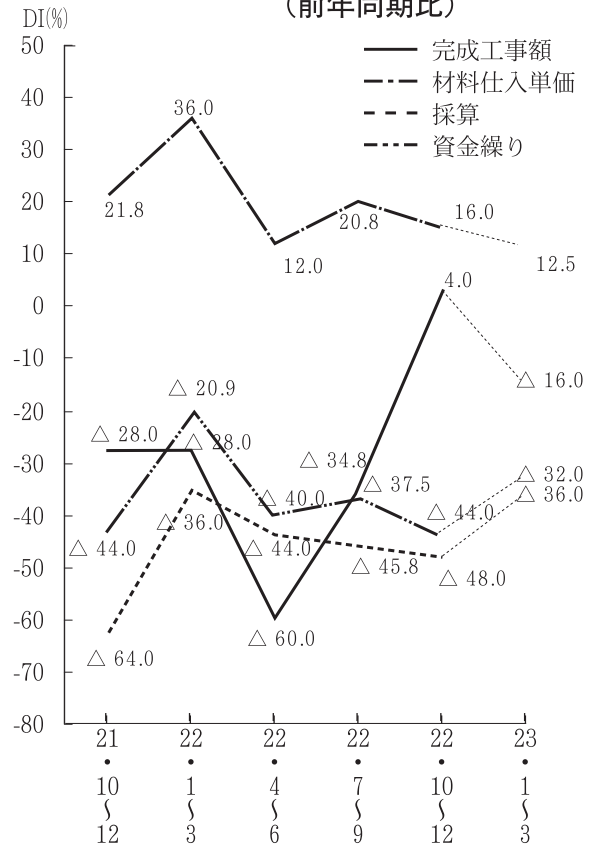
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

住宅エコポイント効果の影響か、完成工事（請負工事）額D Iは 4.0（前期△34.8）で 38.8 ポイントと大幅に改善した、しかしながら採算D Iは△48.0（前期△45.8）と△2.2 ポイント悪化し、採算面では依然として厳しい状況が続いている。

なお、資金繰りD Iは△44.0（前期△37.5）と 6.5 ポイント悪化し、材料仕入単価D Iは 16.0（前期 20.8）と 4.8 ポイント改善した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



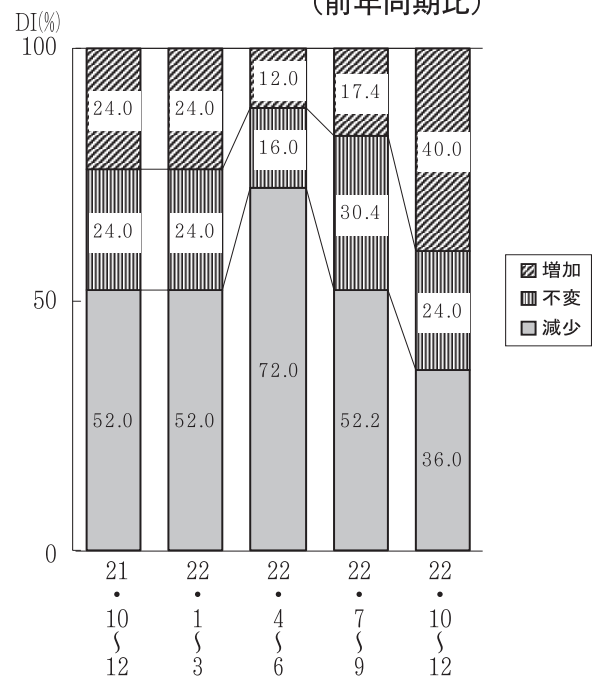
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の 40.0%（前期 17.4%）であり、22.6 ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は 36.0%（前期 52.2%）と 16.2 ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは 4.0（前期△34.8）と 38.8 ポイント好転しプラス値となった。

図 2 - 2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

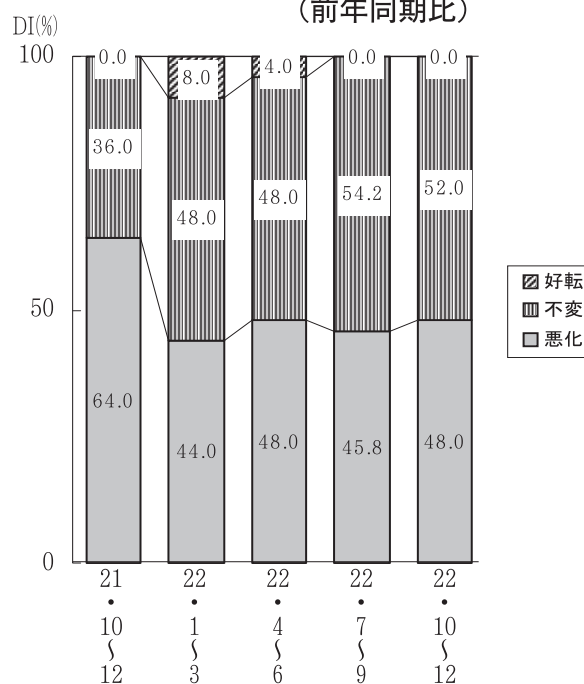


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は前回同様ゼロであり、「減少・悪化」と回答した企業は全体の48.0%(前回45.8%)であり、2.2ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△48.0(前期△45.8)となり、前期比2.2ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況  
(前年同期比)

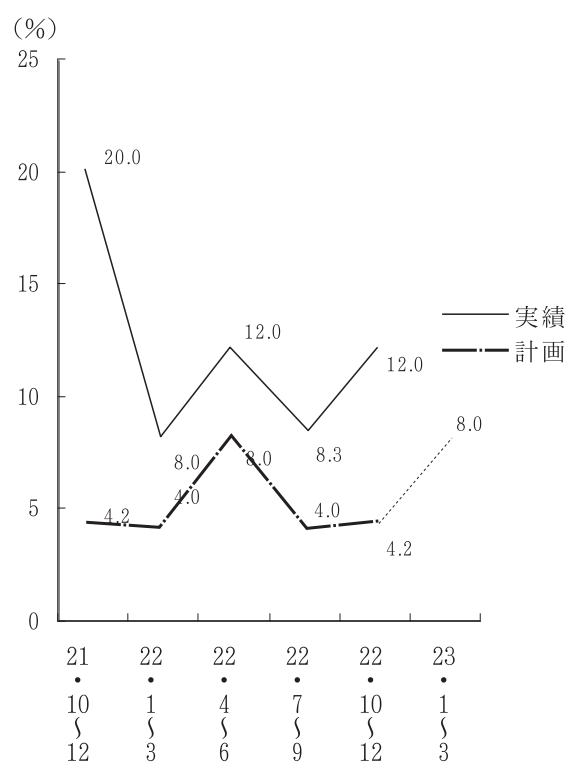


(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の12.0%(前期8.3%)で3.7ポイント増加し、その設備内容は、建設機械、車両運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は、全体の8.0%と依然低水準であり、その設備内容は、建物、建設機械、付帯施設、福利厚生施設、その他を計画している。

図2-4 設備投資の状況

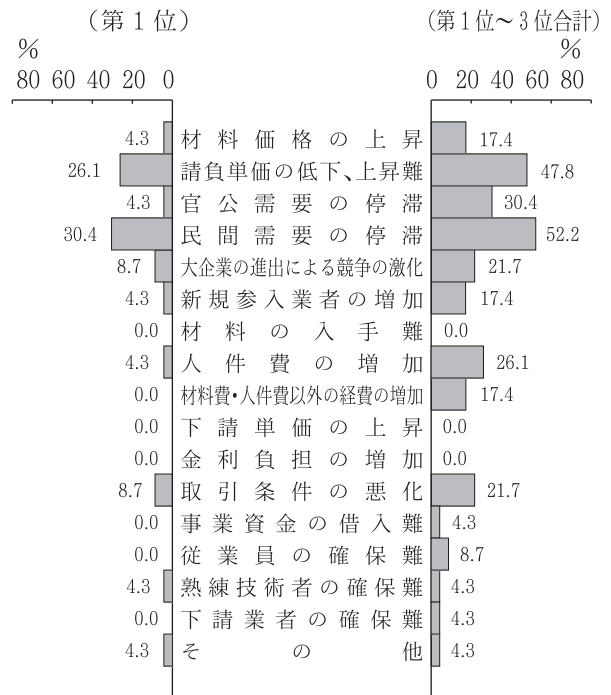


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「民間需要の停滞」(30.4%)、次いで「請負単価の低下、上昇難」(26.1%)、「大企業進出による競争の激化」と「取引条件の悪化」とが8.7%と同率で並び続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」(52.2%(複数回答以下同じ))、「請負単価の低下、上昇難」(47.8%)、「官公需要の停滞」(30.4%)と続いた。

図2-5 経営上の問題点

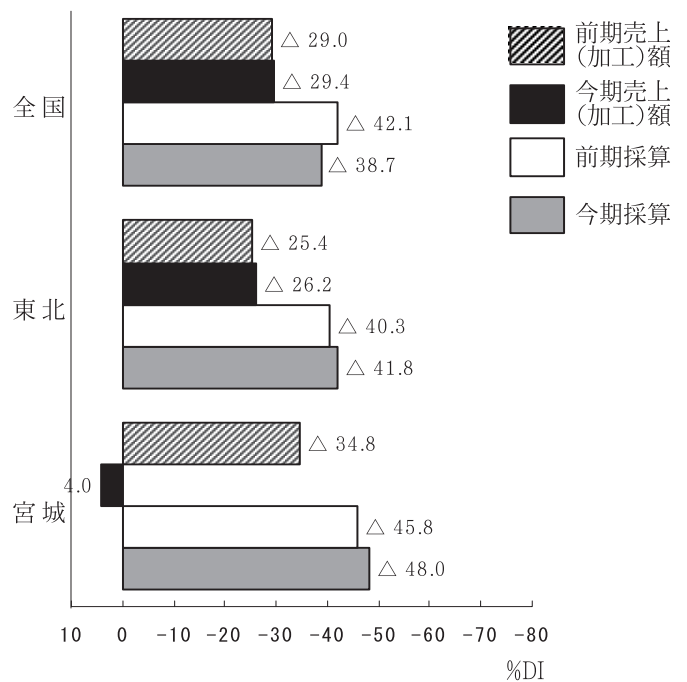


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

完成工事(請負工事)額DIは全国・東北が微減傾向で推移する中、宮城は38.8ポイントと大きく改善しDIは4.0となった。

採算DIは、全国が3.4ポイント改善しているが、東北は1.5ポイント、宮城は2.2ポイント悪化した。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



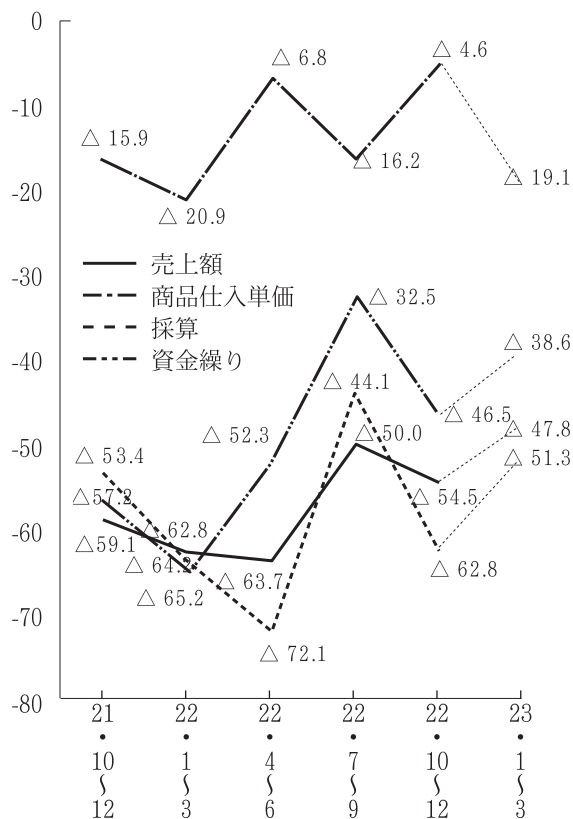
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

小売業は前回すべての重要項目が改善傾向を示したが、今回は重要項目すべてが悪化傾向となった。

売上額D Iは△54.5（前期△50.0）で4.5ポイント、採算D Iも△62.8（前期△44.1）で18.7ポイント、資金繰りD Iも△46.5（前期△32.5）14.0ポイントとそれぞれ悪化し、商品仕入単価D Iも△4.6（前期△16.2）で11.6ポイント悪化した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



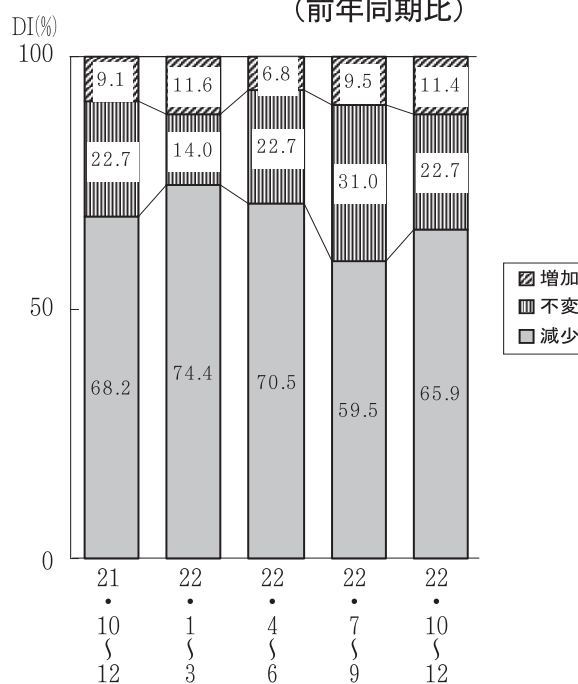
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.4%（前期9.5%）と1.9ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の65.9%（前期59.5%）と6.4ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△54.5（前期△50.0）と前期比4.5ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

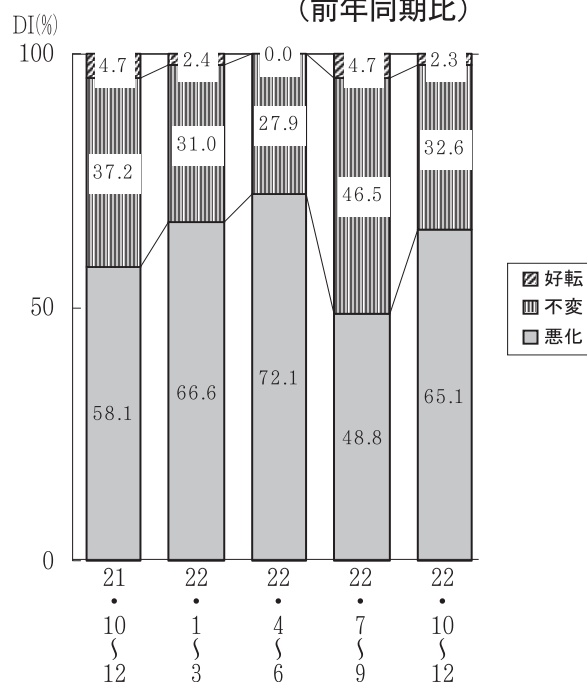


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の2.3%（前期4.7%）と2.4ポイント減少し、「悪化・低下」の回答は全体の65.1%（前期△48.8%）で16.3ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△62.8（前期△44.1）となり、前期比18.7ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)

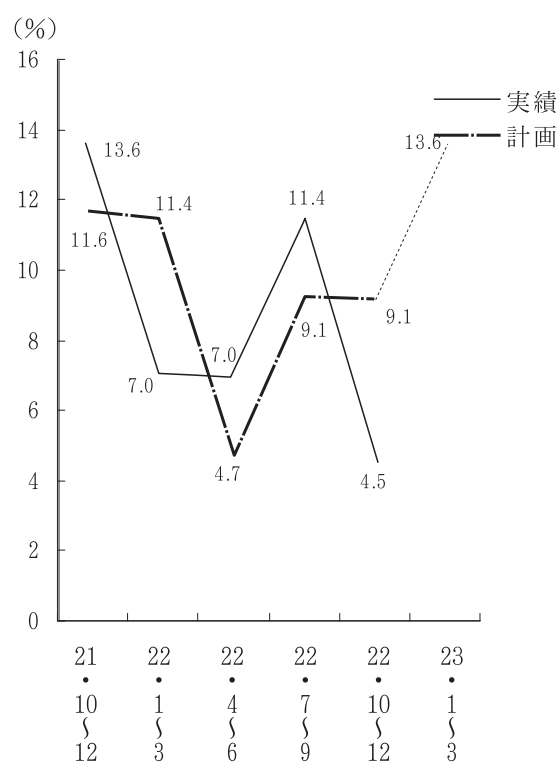


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の4.5%（前期11.4%）で6.9ポイント減少し、その内容は、OA機器、その他である。

来期に設備計画している企業は13.6%で、その内容は、店舗、車両運搬具、付帯施設、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

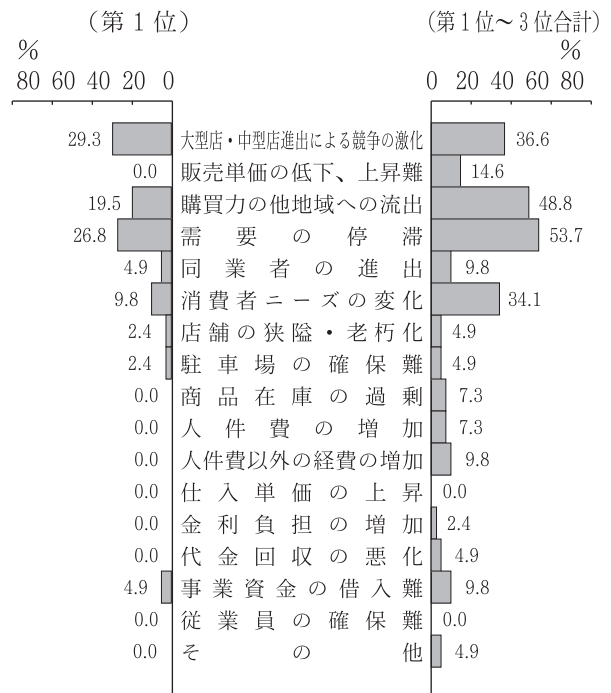


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(29.3%)、次いで「需要の停滞」(26.8%)、「購買力の他地域への流出」(19.5%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(53.7% (複数回答以下同じ))、次いで「購買力の他地域への流出」(48.8%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(36.6%)、「消費者ニーズの変化」(34.1%)と続いた。

図3-5 経営上の問題点

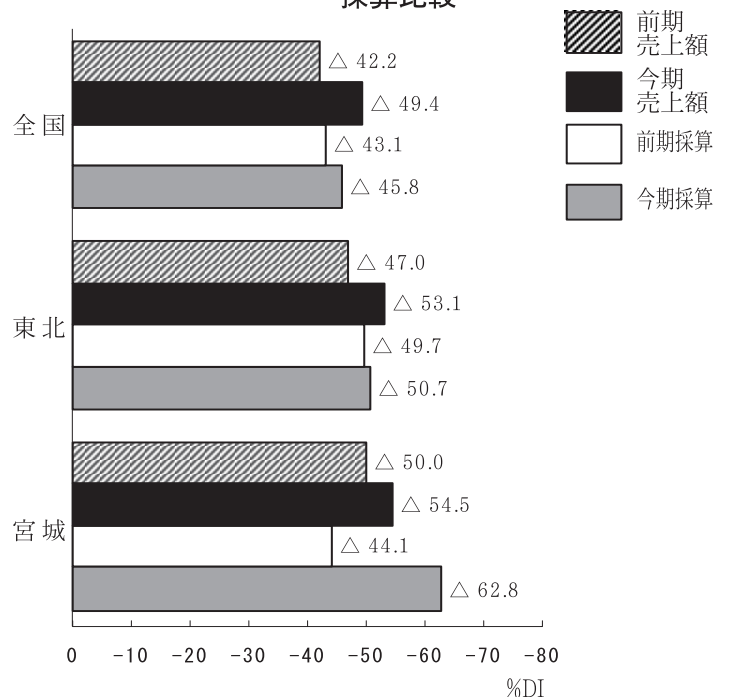


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城ともに悪化基調にありマイナス幅を拡大した。

採算についても同様であり、全国、東北、宮城ともに悪化基調にあり、特に宮城は18.7ポイント悪化させ、全国との乖離も16.0ポイント拡大し17.0ポイントとなった。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



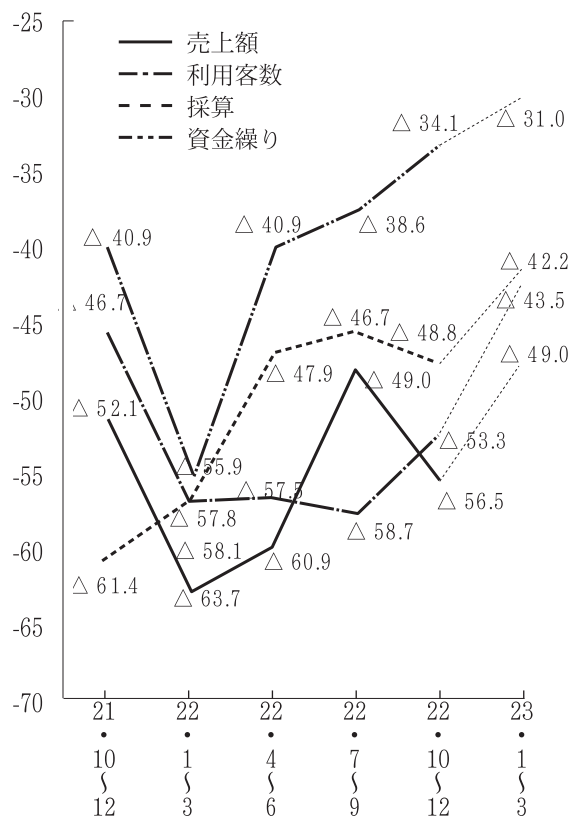
#### (4) サービス業の動向

##### ① 主要景況項目から見たあらまし

利用客数D Iが△53.3(前期△58.7)で5.4ポイント改善したが、売上(収入)額D Iは△56.5(前期△49.0)で7.5ポイント悪化した。

また、資金繰りD Iは△34.1(前期△38.6)と4.5ポイント改善したが、採算D Iは△48.8(前期△46.7)と2.1ポイント悪化させており、宮城は依然として回復の足取りが重い状況となっている。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



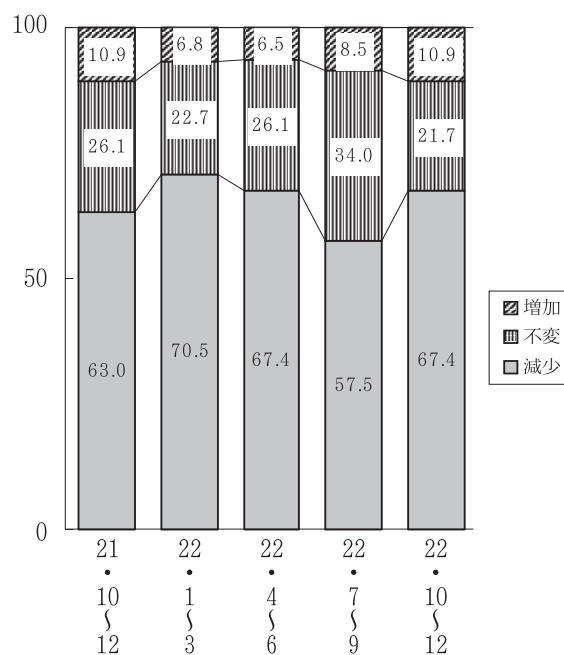
##### ② 主要景況項目別状況

###### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の10.9%(前回8.5%)で2.4ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は67.4%(前回57.5%)で、9.9ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは△56.5(前回△49.0)で前期比7.5ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況  
(前年同期比)

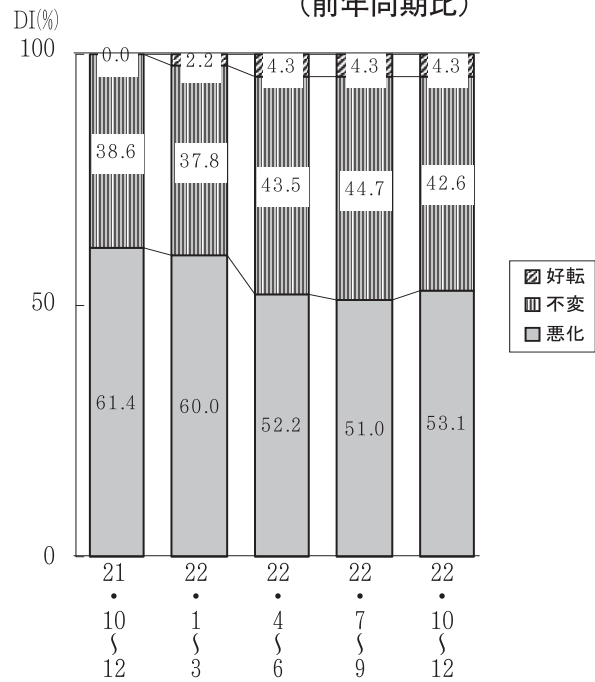


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は 4.3% で前回と同率であり、「低下・悪化」と回答した企業は 53.1%(前回 51.0%)と、2.1 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△48.8(前回△46.7)となり、前期比 2.1 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況  
(前年同期比)



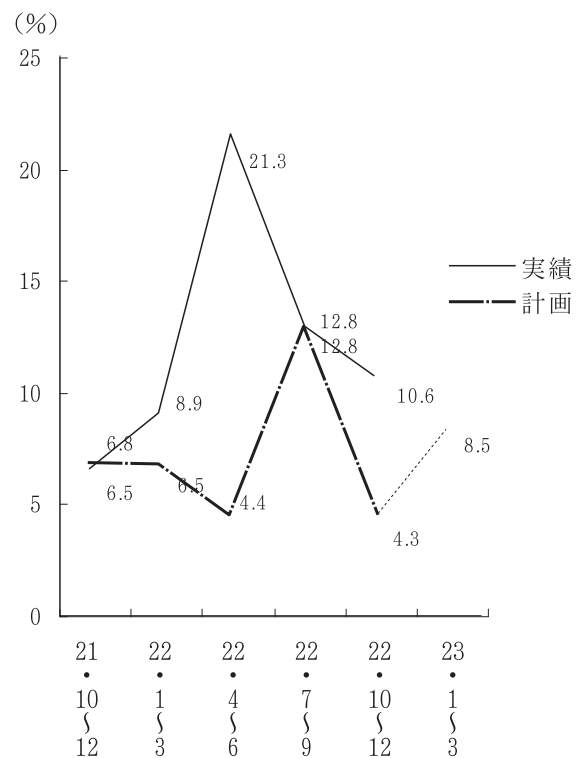
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の 10.6% (前期 12.8%) で 2.2 ポイント減少した。

その設備内容は、サービス、車両運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、8.5%であり、その内容も、建物、サービス、車両運搬具、付帯設備、OA機器、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況



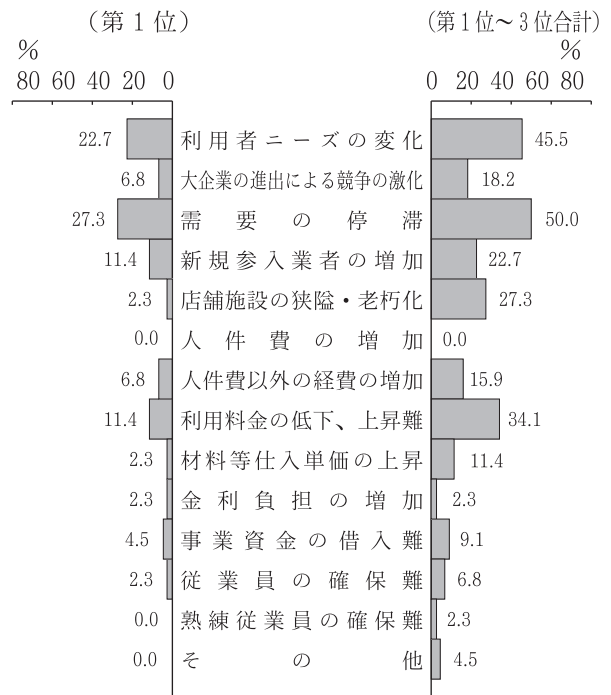


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(27.3%)  
次いで「利用者ニーズの変化」(22.7%)、  
「利用者料金の低下、上昇難」と「新規参  
入業者の増加」がともに11.4%と続いでい  
る。

重要度第1位から第3位合計では、「需要  
の停滞」(50.0%(複数回答以下同じ)) 次い  
で、「利用者ニーズの変化」(45.5%)、「利  
用料金の低下・上昇難」(34.1%)、「店舗施  
設の狭隘・老朽化」(27.3%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点

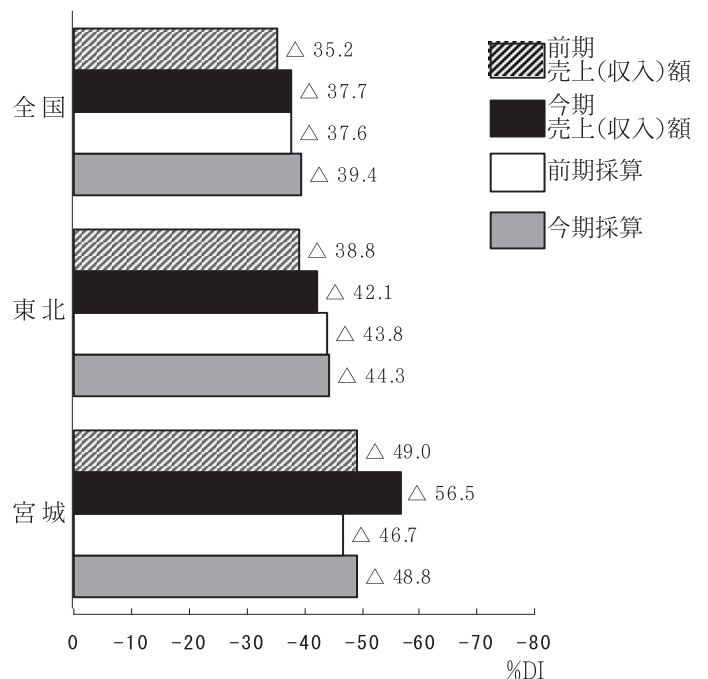


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城いずれも悪化傾向を示しているが、特に宮城は7.5ポイント悪化し、全国と宮城を比較すると乖離幅が△18.8ポイント(前回△13.8ポイント)と5.0ポイント拡大した。

採算DIは、変動幅が微増・微減であり、全国との乖離幅は△9.4ポイント(前回△9.1ポイント)と0.3ポイント拡大した。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています